

おおわだ たけし  
大和田 剛

一般社団法人とみおかプラス 代表

昭和27年(1952)、富岡町生まれ。

1976年、看板業をはじめ。平成元年、有限会社アド・プロ広芸社を設立。震災後は避難先を転々とし、2017年、富岡町に帰還。2015年、フクシマエコテッククリーンセンター(現・管理型処分場)計画に際し、立地計画地の太田行政区長として、町や県、環境省と折衝にあたる。有限会社アド・プロ広芸社 代表取締役会長。

この10年、いろいろなものを失った。2015年は1月に妻、12月には親父、大切な人を立て続けに亡くした。二人を、当時はまだ避難指示解除準備区域だった富岡のお墓に埋葬したとき「絶対、富岡に戻る」と決意した。

2015年6月、太田行政区にフクシマエコテッククリーンセンター(現・管理型処分場)の話を持ち上がり、安全基準をいくら説明されても、みんな「放射性廃棄物を投げるおっかねえものができる」ってイメージしかなかった。当時は自分が区長だったから、行政区を代表して反対を表明したら、「福島復興のためには」とか、いろいろ言われて…。女房を亡くしたのも辛かったけど、あれも辛かったな。その後、施設の安全安心を示すために、処分場のそばに人が集まる観光施設をつくってほしいと要望した。その他にも町づくりのための交流公園、工業団地とか。すでに完成した施設もある。それをどう生かしていくかは、これからの俺たち次第だけだね。崩壊している原子力発電所立地町に住む一人として、もう2度と、こんな惨めな地域をつくってほしくないとしみじみ思う。「この事故の教訓を生かし、次のステップへ進めよう」なんて、軽々しく言ってほしくない。代償が大き過ぎたよ。



仲間と一緒にワイン用ブドウの栽培・醸造を通して、富岡町のにぎわい創出を目指し活動していきたい



とみっぴー